

明石工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	日本の都市形成史	
科目基礎情報							
科目番号	6036			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築・都市システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	適宜プリントを配布する						
担当教員	角田 優子						
到達目標							
1) 土地の風土や自然、文化などに基づく日本の都市の特徴を理解する 2) 日本の各都市の変遷とその特徴を理解する 3) 今日の日本の都市が抱える問題について意見を述べることができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	土地の風土や自然、文化などに基づく日本の都市の特徴を他国との違いを交えながら説明することができる			土地の風土や自然、文化などに基づく日本の都市の特徴を説明することができる		土地の風土や自然、文化などに基づく日本の都市の特徴を説明することができない	
評価項目2	日本の各都市の形成過程と変遷についてその特徴を述べて説明することができる			日本の各都市の形成過程と変遷について説明することができる		日本の各都市の形成過程と変遷について説明することができない	
評価項目3	今日の日本の都市が抱える問題について、自分の意見をいうことができる			今日の日本の都市が抱える問題について説明することができる		今日の日本の都市が抱える問題について説明することができない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本授業では、日本の代表的な都市を取り上げ、その成立と変遷を読み解く。授業を通じて、都市が成立する背景には、その土地の歴史や風土、文化などが影響していることを理解し、様々な観点から都市を読み解く視点を身につけ、最終的には身近の都市の歴史を調べ、自身の視点を加えながら今後のあり方について考察することを目標とする。						
授業の進め方・方法	本授業は主に講義とディスカッションにより行う。各回の授業の最後に授業を振り返るミニレポート、ディスカッションのためのレポート課題を課す。それらの成果物、授業参加度（発表態度や発言内容など）等を総合的に判断して評価を行う。試験は実施しない。本授業において、到達目標を達成するためには授業以外に、次の自己学習が必要である。 1) 授業で扱う時代背景（当時の文化、政治、社会など）について事前に予習しておくこと、2) 身近な都市に関心を持ち、資料を用いてその歴史調べたり、実際に足を運んで痕跡を確かめたりすること、3) 関係のある文献・書籍を読むこと。 参考図書：都市史図集編集委員会編『都市史図集』彰国社、1993、鈴木博之編「シリーズ・都市・建築・歴史」東京大学出版会ほか						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。1/3以上の欠課は評価の対象としない。 授業内の議論や発表などのための事前準備を十分に行うこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション 本授業の進め方、文献資料の調べ方などについての説明		本授業の進め方や評価方法、目標を理解し、人に説明することができる。		
		2週	日本の古代都市 平城京や平安京の成立と変容		都城について理解する		
		3週	日本の近世都市 城下町などの成立と変容		近世都市の特徴を理解する		
		4週	近代化する都市（東京） 江戸から東京へ		江戸から東京へ移り変わった時代について説明することができる		
		5週	近代化する都市（京都） 遷都と三大事業		近代化する京都について説明することができる		
		6週	近代化する都市（神戸） 開港と居留地建設		開港都市神戸について説明することができる		
		7週	災害と復興 阪神淡路大震災		災害復興により変化した都市について説明することができる		
		8週	身近な都市の見学（1）		身近に残る歴史の痕跡を見つけることができる		
	4thQ	9週	身近な都市の見学（2）		身近に残る歴史の痕跡を見つけることができる		
		10週	身近な都市の見学（3）		身近に残る歴史の痕跡を見つけることができる		
		11週	郊外住宅地の開発 電鉄会社による郊外住宅地開発		電鉄会社による郊外住宅地開発について説明することができる		
		12週	塩屋の開発と変容 外国人との共生		外国人と共生してきた神戸の特徴を説明することができる		
		13週	戦後の都市開発 ポートアイランドや六甲アイランドの開発		神戸市による都市開発について説明することができる		
		14週	身近な都市の形成過程 文献調査・現地調査により身近な都市の歴史を明らかにする		文献調査と現地調査の方法を身につける		

		15週	まとめ これまでの授業を踏まえ、今後の都市について考える		授業をふりかえり、今日の都市の抱える問題について 自分の意見を持って議論することができる		
		16週	期末試験は実施しない		期末試験実施せず		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
		授業内レポート		レポート	授業参加度・発表	合計	
総合評価割合		30		50	20	100	
基礎的能力		10		20	5	35	
専門的能力		10		20	5	35	
分野横断的能力		10		10	10	30	